

病理検査室の窓辺から

ミミック疾患

斉藤 隆三

PCL 東京 病理・細胞診センター

ミミック (mimic) 疾患とは、よくある有名な病気にみせかけて現れる紛らわしい別の病型のこと、mimic は生物学の「擬態」の名前に由来する。皮膚疾患でのミミック疾患を例にみると悪性黒色腫に対する母斑細胞母斑、脂漏性角化症、基底細胞癌、血腫などがあげられ、臨床の鑑別診断に相当する。これらを発症年齢、部位、経過などを参考にしつつ、臨床症状の詳細な観察、ダーモスコピー所見などを加えて鑑別していくが、とくに病理組織検査所見が重要な情報を与えてくれる。

一方、臨床情報を抜きにして、病理組織所見のみからのミミック疾患をみると、たとえば炎症性皮膚疾患では湿疹型炎症反応、苔癬型炎症反応、痒疹型炎症反応、乾癬型炎症反応、滲出性紅斑型炎症反応など、代表的な炎症反応を呈する疾患群があり、それぞれの反応を示すものの中に多くの疾患が含まれる。乾癬型炎症反応を呈する疾患としては尋常性乾癬をはじめとして、脂漏性皮膚炎、ジベル薔薇色秕糠疹、毛孔性紅色秕糠疹、壊死性遊走性紅斑、腸性肢端皮膚炎、ペラグラ、白癬などなどやはり多くの疾患がある。それぞれの病理組織所見の不全角化の程度、表皮肥厚の状態、表皮の海綿状態の有無、炎症性細胞浸潤の性状などに着目して鑑別を行っていくが、これらの疾患でも炎症の経過によって組織反応に変化がみられるので、ときに鑑別が困難になることがある。その際に臨床の情報があればそれが鑑別の要となるので、病理検体を提出する際に臨床症状の詳細を記載し、臨床的に鑑別疾患があげられるようであれば、その情報を提示していただきたい。一方、腫瘍性病変では良性か悪性かの区別をすることが治療や予後に関連してくるので、どのような症状のどの部位から採取された検体か記載することが必要である。

病理組織検査は診断を下すうえで重要な情報を与えてくれるが、その診断の精度を上げるためには詳細な臨床の情報が欠かせない。病理組織検査依頼書には臨床の情報を可能なかぎり記載していただくことを、病理診断医として切望している。